

徳之島事務所（令和6年2月分）管内情勢

農林水産業関連

1 徳之島町のたんかん生産量は約250トンの見込み

2月1日に徳之島町にて徳之島町柑橘生産組合主催のたんかんはさみ入れ式が開催され、農業者及び関係機関・団体約40人が出席した。

徳之島町のたんかん栽培面積は約78haであり、今年度産の生産量は約250トンの見込みである。今年度産は産地全体の着果量が少ない傾向であり、前年度産の約5割の生産量となるが、前年10月以降の日照時間が長く、雨が少なかったため、果実の糖度は高く、食味は良好である。

農業普及課では摘果の徹底による連年安定生産技術について支援していく。



2 令和6年産マンゴーは豊作の見込み

2月14～16日に3町のマンゴーほ場にてマンゴー栽培講習会を開催し、生産者及び関係機関延べ36人が参加した。講習会では開花期の栽培方法や病害虫防除、施肥方法などについて講習した。

昨年秋以降の日照時間が長かったことから、今年産は全体的に蕾が多く見られ、開花期の天候次第ではあるが豊作の見込みである。

農業普及課では、連年安定生産に向けた適期管理について支援していく。

3 ハカマロールサイレージ販売で粗飼料不足の解消を図る

さとうきび収穫残渣のハカマをロールサイレージに調製した製品について、徳之島町のハーベスタ営農集団が2月15日より販売した。

これまで、粗飼料不足期の飼料として活用するため、肉用牛振興協議会大島支部を中心に各種調査を行い、課題解決を図ってきた。牛への給与調査で明らかになった品質や嗜好性



向上の課題は、さとうきびハーベスタのシューター改造による集草方法の改善や糖蜜等の添加で改善を図っている。

農業普及課では、粗飼料不足解消へ向けて支援を継続する。

4 耕作放棄地対策の実演会にて、ほ場トラブルの対策を周知

2月22日に徳之島町で徳之島さとうきび生産対策本部が主催した機械の実演会が行われ、農家、関係機関、建設会社約50人が参加した。

徳之島では、ほ場の石れきによる機械トラブル等が発生しているという現状にある。そこで、マルチャー（木材等粉碎機）とストーンクラッシャー（岩石粉碎機）を、トラクタに装着して石れきの粉碎作業を実演し、効率的に作業が実施できることを確認した。また、GNSSトラクタに装着したビレットプランタの実演も行った。

